



## PRIMCED Newsletter

No. 7 (May 2013)



## 目次

- 中間評価向け報告執筆を終えて〔黒崎卓〕...1~2  
国際ワークショップ報告〔ニュースレター編集部〕...2~4  
ディスカッション・ペーパー...4



## 中間評価向け報告書執筆を終えて

黒崎 卓（研究代表者）

2013年3月8~9日のPRIMCED国際ワークショップでは、皆さまの活発なご参加をいただき、ありがとうございました。ワークショップの詳細についてはこのニュースレターの記事をご覧ください。

この4月でPRIMCEDも4年目に入りました。5年間のプロジェクトの後半ということになります。科学研究費基盤研究Sとして、4月上旬に中間評価のための報告書を作成・提出いたしました。その概要を報告いたします。

これまで3年間の研究成果から、開発途上国における持続的な経済成長と貧困削減に資するような政策・制度を明らかにする上で、現代途上国の分析と戦前日本など現在の先進国がまだ貧しかった時期の分析とを長期的視野に立って組み合わせること、マクロ諸変数とマイクロデータの分析を組み合わせることが有効であり、かつ、無作為政策実験(RCT)では分析が困難な、長期的経済発展にとって重要な大きな論点の分析が可能であることを示した点において、本研究プロジェクトは学術上大きな貢献を行いつつあると考えております。とりわけ、長期経済発展・貧困削減と自然災害への脆弱性の相互関連に関して、実証研究を積み上げることができたのは大きな成果だと思います。また、長期経済発展・貧困削減に資する人的資本蓄積のパター

ンに関する理解という点に関して、絶対的貧困からの脱却という第一局面の移行と、中心国の罫からの脱却という第二局面の移行との間に大きな違いがある可能性が示唆されたことも重要な研究成果と考えます。どちらの研究テーマにおいても、インフォーマルなネットワークやコミュニティの役割が重要であることを、ミクロ的に歴史データ、現途上国データの両方で示したことも、特筆すべきファインディングだと思います。

さらには、制度と組織、経済取引の詳細など、通常の国民所得データ、企業・家計データなどからは得られないオリジナルのデータを独自に収集・分析する点で、当初の目標に向けて順調な進展が見られることも報告書に特記しました。現地の研究協力者との連携により集めるアジア、アフリカにおける組織的なフィールド調査のマイクロデータと、これまであまり利用されてこなかった歴史資料（戦前日本の農家経済調査個票データ、民事訴訟データなど）のデータベース化と、それにもとづく研究成果が出てきています。個別データへのアクセス希望も多く寄せられています。2度の国際ワークショップにおいて、本プロジェクトの研究アプローチと、個別研究論文、データベースそれぞれへの高い期待が内外の研究者から示されたと考えております。

今後2年間の計画ですが、データベース構築作業とその分析を継続しつつ、最終2015年度には、関係する内外の研究者や実務家を招いた国際シンポジウムを開く予定です。研究期間終了までの2年間で、研究代表者としては特に以下の3点に研究の重点を置く計画です。

第1は、歴史的アプローチと計量経済学的アプローチとの融合、マクロ的アプローチとミクロ的アプローチとの融合を統一的に行う手法として、家計の動学的最適化と市場一般均衡効果のミクロ経済理論に基づいた数値解析モデルを構築し、その予測を基に、ミクロ・マクロ、現代・歴史の諸側面を比較する手法を確立させることです。モデルはある程度の汎用型をまず構築した上で、長期的経済発展と持続的貧困削減に鍵となる個別の論点（自然災害のインパクト、信用アクセスなど）の分析に対応した拡張が容易になるように設計することを目指したいと考えております。

第2は、東アジア諸国の人的資本蓄積を考慮し、農耕社会段階から前期工業化段階への移行という第一局面だけではなく、前期工業化段階から後期工業化段階への移行、さらには脱工業化段階への移行を見据えた分析です。言い換えると「中進国の罫」を脱却する上で必要な人的資本とそれに資する制度・政策は何かと

いう問題です。絶対的貧困脱却だけでなく、先進国への移行まで見通した開発政策が、第一局面においてどのようなものであるべきかについての研究を、比較経済発展論の枠組みで進めたいと思います。

第3に、個別政策設計への政策提言を意識した研究を、これまでの研究成果が集中している分野に関して行うことを考えたいと思います。私の念頭にあるのは、アジア・アフリカ諸国における天候保険導入および信用アクセス改善です。これらは、不慮の事態への対応という後ろ向きの側面だけでなく、保険・信用の改善によって生産的な投資が促進されるという前向きの側面も持ちます。個別政策のインパクト評価に関しては、可能な範囲で無作為政策実験(RCT)の手法を採用したいと思いますが、このような社会実験を、孤立したRCTとしてではなく、その地域に関する長期的なデータと分析を蓄積させて、それらと連関させること、すなわち長期経済発展の中に位置づけた分析を行う点で、本プロジェクトの特徴を出していけると考えております。

以上は、皆さまとの共同研究や研究成果の共有なくしては行い得ません。本プロジェクトへの引き続きのサポートをお願いいたします。

## 国際ワークショップ報告

ニュースレター編集部

2013年3月8日(金)・9日(土)、一橋大学マールキュリータワーにて、PRIMCED 国際ワークショップ(兼：一橋大学経済制度研究センター・セミナー)が開催されました。

5ヶ年プロジェクトであるPRIMCEDは3年目にあたる昨年度がちょうどプロジェクトの中間年度でした。年度末にはプロジェクトの中間評価も控えていたことから、昨年度は2回の大型ワークショップを開催しま



Scott Rozelle 教授の報告



会場の様子

した。まず6月・7月にはPRIMCEDメンバーによる報告を中心とした全体会議を開き、これまでの研究成果の共有と、分析枠組の統合に向けた議論を行いました(2012年6月29・30日、7月20日。詳細はニュースレターNo.4、No.5をご参照ください)。その議論を受けたさらなる中間成果を、内外の関連研究者や開発の現場に関わる方々に披露し、積極的な意見交換を通じ



会場の様子

て今後の課題を明らかにするという目的で、今回の国際ワークショップが企画されました。

2日間のプログラムでは、国内外からの7人のゲストスピーカーによる報告を含む13本の研究報告が行われ、参加者は約50名にのぼりました。1日目はマクロ的な視点に基づくテーマが中心で、対象地域における経済発展、不平等および再分配政策、工業化、人的資本の形成について、歴史分析と地域横断的な比較分析が行われました。2日目はミクロ的な視点に基づくテーマが中心で、途上国におけるさまざまなリスクに対処する制度の設計と現状、予防健康管理や都市インフラが与えるインパクトについて、ゲーム理論等を応用した理論分析と、独自のデータや実験に基づくミクロ計量分析が行われました（詳細は別添のプログラムをご参照ください）。すべての報告を通じた共通論点として、なぜ経済発展において制度が重要な役割を果たすのか、制度採択を決める要因は何か、採択された制度がもたらす資源配分上のインパクトや分配面への影響をどう計測するか、最適な制度や政策を設計する上で歴史分析や計量分析が果たし得る機能は何か、などの問題が活発に議論されました。

国立市内を一望できるマージョリーホールでのティープレイクやレセプションは、なごやかな交流の場となりました。2日間を通して参加者間の積極的な意見交換が行われ、プロジェクトの中間成果を内外に披露し今後の課題を明らかにするという目的が十分に達成された国際ワークショップとなりました。



(左より) 大塚啓二郎教授、Myung Soo Cha 教授

## プログラム

### 第1日(2013年3月8日(金))

#### 第1セッション

【Chair: 黒崎卓（一橋大学/研究代表者）】

Scott Rozelle (Stanford University)

"Will China Fall into a Middle Income Trap? Growth, Inequality and Future Instability"

森口千晶（一橋大学）

"Taxation and Public Goods Provision in China and Japan before 1850"

(co-authored with Tuan-Hwee Sng)

#### 第2セッション

【Chair: 中島賢太郎（東北大学）・

阿部修人（一橋大学）】

大塚啓二郎（政策研究大学院大学）

"Cluster-Based Industrial Development in Contemporary Developing Countries and Modern Japanese Economic History"  
(co-authored with Tomoko Hashino)

岡崎哲二（東京大学）

"Expanding Empire and Spatial Distribution of Economic Activities: The Case of Colonization of Korea by Japan in the Prewar Period" (co-authored with Kentaro Nakajima)

深尾京司（一橋大学）

"Regional Inequality and Migration in Prewar Japan, 1890-1940" (co-authored with Jean-Pascal Bassino, Ralph Paprzycki, Tokihiko Settsu and Tangjun Yuan)

#### 第3セッション

【Chair: 岡崎哲二（東京大学）】

Myung Soo Cha（嶺南大学）

"State Famine Relief as a Cause of the Great Divergence"

神門善久（明治学院大学）

"The Role of Education in the Economic Catch-Up in East Asia"



レセプションでの歓談

**第2日(2013年3月9日(土))****第1セッション**

【Chair: 森口千晶 (一橋大学)】

Marjorie Pajaron (Stanford University)

"Remittances, Informal Loans, and Assets as Risk-Coping Mechanisms: Evidence from Agricultural Households in Rural Philippines"

Krislert Samphantharak

(University of California, San Diego)

"Risk and Return in Village Economies" (co-authored with Robert M. Townsend)

**第2セッション**

【Chair: 澤田康幸 (東京大学)】

Ethan Ligon (University of California, Berkeley)

"Structural Experimentation to Distinguish between Models of Risk Sharing with Frictions" (co-authored with Laura Schechter)

高崎善人 (筑波大学)

"Cognition, Learning, and Perceptions about Information and Incentives: Experimental Evidence from Antenatal Care in Nigeria" (co-authored with Ryoko Sato)

**第3セッション**

【Chair: 三重野文晴 (京都大学)】

Albert Park (香港科技大学)

"Disaster, Relocation, and Child Development: Evidence from the Wenchuan Earthquake" (co-authored with Yasuyuki Sawada, Heng Wang and Sangui Wang)

黒崎卓 (一橋大学)

"Urban Transportation Infrastructure and Poverty Reduction: Delhi Metro's Impact on the Cycle Rickshaw Rental Market"

**ディスカッションペーパー (2013.1 ~ 2013.3)**

No. 33 (January 2013) Hangtian Xu and Kentaro Nakajima, "Highways and Development in the Peripheral Regions of China."

No. 34 (February 2013) Ayako Matsuda, Takashi Kurosaki, and Yasuyuki Sawada, "Rainfall and Temperature Index Insurance in India: Project Documentation."

No. 35 (February 2013) Tuan-Hwee Sng and Chiaki Moriguchi, "Taxation and Public Goods Provision in China and Japan before 1850."

No. 36 (March 2013) Kazuya Wada, "Changes in Employment Structures and Investments in Children's Education: Evidence from Rural India."

No. 37 (March 2013) Takashi Kurosaki and Hidayat Ullah Khan, "Household Vulnerability to Wild

Animal Attacks in Developing Countries: Experimental Evidence from Rural Pakistan."

No. 38 (March 2013) Yutaka Arimoto, Takeshi Sakurai, Mari Tanaka, and Ralandison Tsilavo, "Rice Trading in Madagascar: Report on Rice Trader Survey 2011."

No. 39 (March 2013) Takashi Kurosaki, "Dynamics of Household Assets and Income Shocks in the Long-run Process of Economic Development: The Case of Rural Pakistan."

No. 40 (March 2013) Ryo Kambayashi, "The Role of Public Employment Services in a Developing Country: The Case of Japan in the Twentieth Century."

**PRIMCED Newsletter, No. 7 (May 2013)**

編集・発行 一橋大学科学研究費(基盤S)プログラム「途上国における貧困削減と制度・市場・政策：比較経済発展論の試み(PRIMCED)」事務局

〒186-8603 東京都国立市中2丁目1番地

一橋大学経済研究所附属経済制度研究センター内

TEL: 042-580-8405 Fax: 042-580-8333

E-mail: primced@ier.hit-u.ac.jp

URL: <http://www.ier.hit-u.ac.jp/primced>